

小中学生の「探索行為」と「学習でのインターネットの利用」の関係

水野 一成 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
近藤 勢津子 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
吉良 文夫 (NTTドコモ モバイル社会研究所)

多くの小中学生がGIGAスクールやスマートフォンの所有低年齢化により、インターネットにアクセスできる環境にある。その環境下で、主体的な学びが重要となっている。本稿では主体的な学びを「探索行為」とし、学習でのインターネット利用との関連を明らかにすることを目的としている。2023年11月実査の結果を基に分析を行った結果、小学校高学年及び中学生の中で、探索行為を実施している子は、学習でのインターネット利用時間が長い結果であった。なお、学習以外のインターネット利用と探索行為の間には、関連は認められなかった。また、考察の中では、「ICTスキル」及び「学校の成績」と探索行為の実施有無を合わせて分析し、実施している層では「基本的なスキルが身についている」「学校の成績が上位」であった。

キーワード：探索行為、インターネット、小学生、中学生、ICTスキル

1. はじめに

学習指導要綱の中に「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」の視点において、児童・生徒が「主体的な学び」を実践することが重要となっている。

NTTドコモ モバイル社会研究所が2023年11月に調査した結果(詳細は項番2で説明)では、スマートフォン(以下、スマホ)、タブレット、パソコンの利用率は図1の通りである。GIGAスクール構想が本格的に始動した2021年以降、タブレット及びパソコンの利用率が大きく伸びた(図2)。また、スマホの所有の低年齢化が進んでいる(図3)。そういった変化もあり、この3つの情報機器のいずれも利用していない割合は、小学生低学年は2.1%、高学年は3.4%、中学生では0.5%と少なく、多くの小中学生が情報機器を利用している。

主体的な学びが実践できるために、疑問に感じたことについて、直ぐに調べる環境(インターネットにアクセスできる環境)ができつつある。

では、これら情報機器を利用した学び(インターネットの利用)が小中学生の探索行為

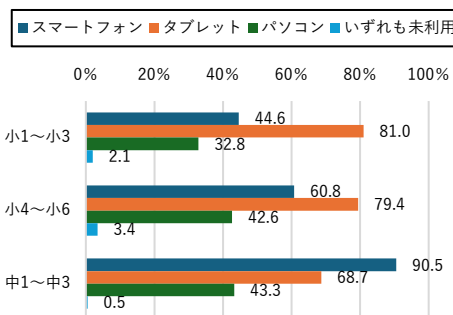


図1 ICT機器の利用率

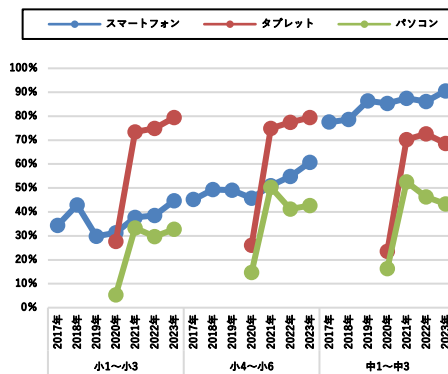


図2 ICT機器の利用率(経年推移)

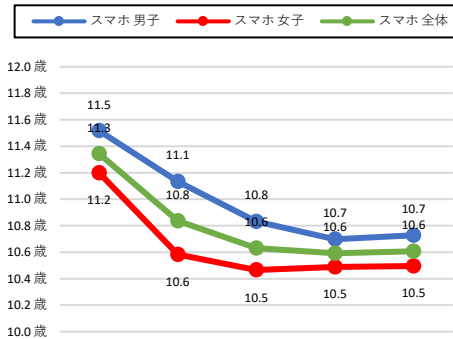


図3 スマホ所有開始年齢

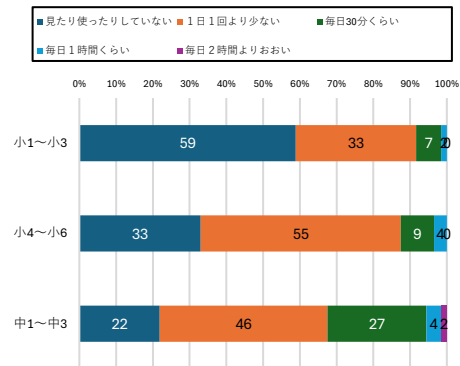


図4 探索行為の実施頻度

とどのような関連が見られるか、本稿はこれを目的とした。

2. 調査概要

調査時期：2023年11月

調査対象：関東1都6県、
小中学生の親と子

調査方法：訪問留置調査

標本抽出法：QUOTA SAMPLING

性別(5歳刻み)・学年・エ
リア・都市規模で割付

回答数：600

分析対象はNAを除いた589

3. 分析結果

3.1. 探索行為

調査票では、探索行為については「普段の生活で疑問に思ったことを調べたり、動画をみること」(5件法)と子に聞いており、本王ではこの回答結果を用いる。

回答結果は図4の通りである。頻度に差はあるが、行っている割合は、小学生低学年は41%、小学生高学年は67%、中学生になると78%と上がる。本稿では、この実施していると、実施していない群に分け、各学年それぞれ分析

を行う。

3.2. インターネット利用時間

情報機器を利用した学習については、「学習で利用するインターネットの利用時間(1日平均)」を利用した。

学習で利用するインターネットの時間は、小学生低学年は平均0.3時間(分散0.10)、小学生高学年は平均0.4時間(分散0.35)、中学生は平均0.6時間(分散0.56)と学年が上がるほど、利用時間は増え、かつ散らばりも大きくなる。

また、学習以外で利用するインターネットの時間は、小学生低学年は平均1.4時間(分散1.48)、小学生高学年は平均1.8時間(分散2.13)、中学生は平均1.9時間(分散2.18)とこちらも学年が上がるほど、利用時間は増え、かつ散らばりも大きくなる。

3.3. 探索行為とインターネット利用時間

それでは、探索行為の実施有無と、学習で利用するインターネット利用時間について、学年別に確認をした結果を図5に示す。

探索行為の実施有無と学習でのインターネット利用時間の間に有意に差が見られたのが、小学生高学年と中学生であった。小学生低学年では0.18時間、中学生になると0.20時間、探索行為を行っている群が、行っていない群

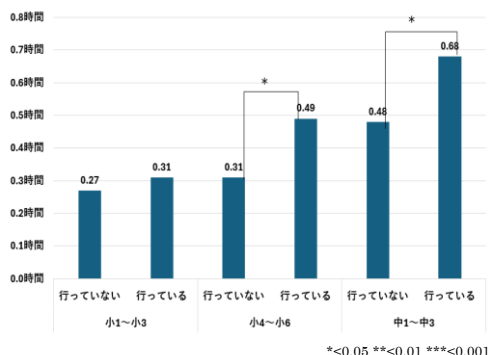


図5 探索行為の実施と学習でのインターネット利用時間（1日平均）

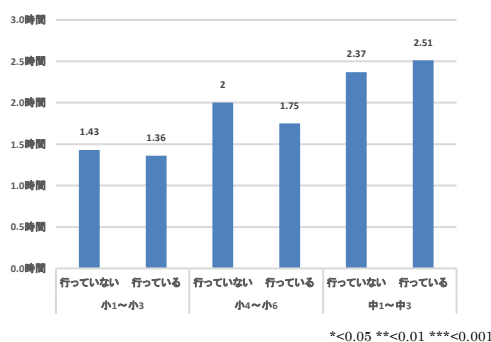


図6 探索行為の有無と学習以外でのインターネット利用時間（1日平均）

と比較して、学習でのインターネット利用時間が長い結果であった。

次に、学習以外でのインターネット利用時間と探索行為の実施有無について、確認をおこなった。図6の通り、全学年探索行為の実施有無によって、学習以外でのインターネット利用時間に有意な差は確認できなかった。

4. 考察

4.1. ICTスキルと探索行為

ここからはインターネット利用時間以外と探索行為について、検討を行いながら、議論を進める。

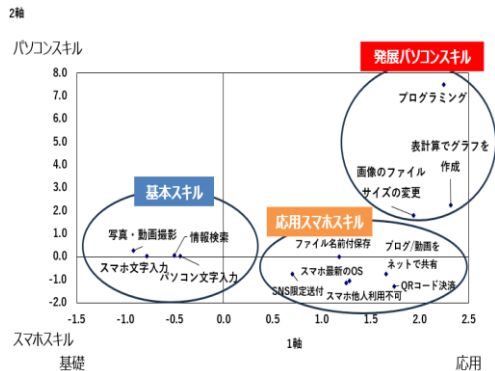


図7 ICTスキルの類型化

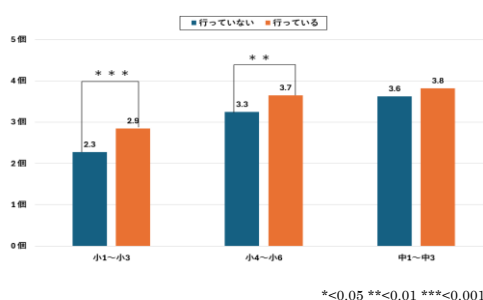


図8 基本スキルと探索行為の有無

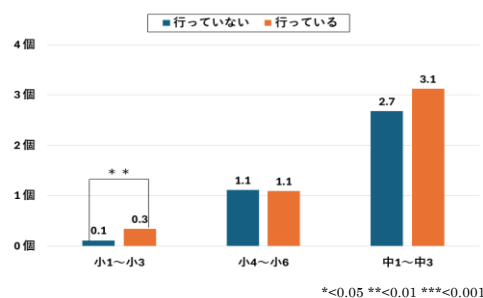


図9 応用スマホスキルと探索行為の有無

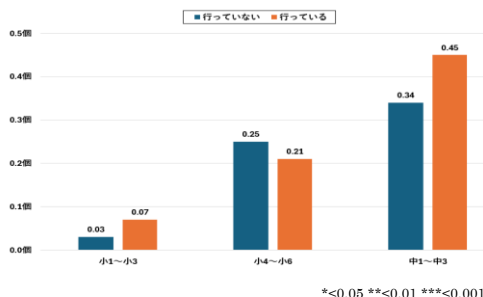


図10 発展パソコンスキルと探索行為の有無

学習でのインターネット利用時間と探索行為に有意な差が見られた。インターネットで探索行為を行うには一定のスキルが必要となる。ではICTスキルと探索行為については、差が見られるか検証をおこなった。

ICTスキルは、13のスキルの実施の可否も回答結果を基に数量化理論第Ⅲ類を用いた分析を行った結果を利用する。分析の結果、「基本スキル」「応用スマホスキル」「発展パソコンスキル」に分類した（図7）。

本稿ではこの3つに分類したスキルの実施可能個数を探索行為の実施有無別、かつ学年別に集計した。

基本スキルは図8の通り、小学生で差が見られ、探索行為を行う子が高い。応用スマホスキルは図9の通り小学生低学年のみ差が見られ、探索行為を行う子が高い。発展パソコンスキルは図9の通り、差が見られなかった。

探索行為の実施有無とICTスキルについては、小学生において、基本的なスキルが身につけているかで差が現れた。早期に基本的なスキルだけでも身に着けることが、探索行為の実施に繋がる可能性がある。

4.2. 学校の成績と探索行為

次に探索行為と学校での成績との関連について、分析を行った。学校での成績は、親に6件法(上, やや上, 真ん中, やや下, 下, 答えたくない)で聞いている。分析には答えたくない人を除き、上及びやや上と答えた層の割合を探索行為の実施別で見た。

その結果、小学校高学年及び中学生において、探索行為を実施している層は有意に学校の成績が上であった。

5. まとめ

探索行為は学習面の効果をもたらし、インターネットの学習利用が関連していた。また、インターネットのスキルは基本的なスキルの習得が関連している。

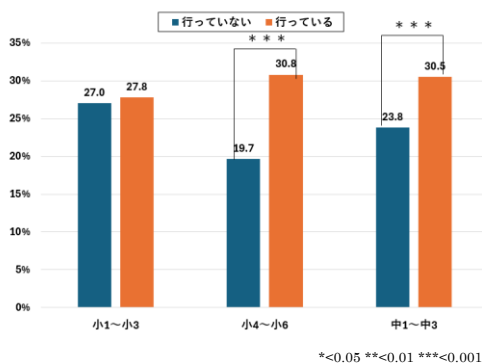


図11 学校での成績と探索行為の有無

参考文献

- NTTドコモ モバイル社会研究所
<https://www.mobaken.jp/project/children/kodomo20230522.html>（参照日 2024.06.12）
- 文部科学省（2019）学習指導要領改訂の考え方教育の情報化に関する手引 追補版,
https://www.mext.go.jp/content/1421692_6.pdf（参照日 2024.06.28）
- 水野一成, 近藤勢津子, 吉良文夫(2024) 小中学生のICTスキルの類型化. 日本教育工学会研究報告集, 2024(1):130-133.

Relationship between "exploratory behavior" and "Internet use in learning" among elementary and junior high school students

- KAZUNARI Mizuno(NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute)
 SETSUKO kondo(NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute)
 FUMIO KIRA(NTT DOCOMO Mobile Society Research Institute)